

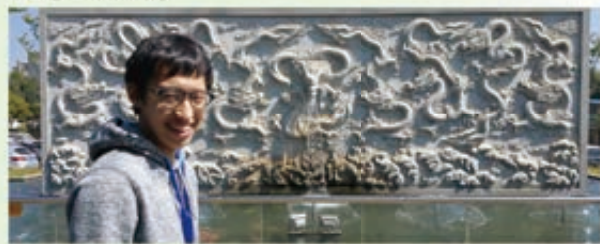
## ■コース生(第5期生)の活動報告



小島 信一郎

総合理工学府  
量子プロセス理工学  
一貫制博士2年(修士2年)

量子プロセス理工学専攻、内野研究室所属修士2年小島信一郎です。研究活動は応用力学研究所高温プラズマ理工学センター花田研究室で行なっています。現在の研究内容は核融合発電に向けた高温プラズマのX線計測です。核融合発電の実現の夢に向かって只今絶賛研究中です。私のGAコース生としての抱負は、「英語に負けない」です。もともと英語が苦手な私は英語の勉強が嫌いです。しかし、研究室では留学生に囲まれ、GAの授業は英語のものしかありません。おまけにレポート、論文全て英語。かなり苦しいですが、GAに入コースできた以上絶対に英語を理由に負けません。嫌いな英語も接していれば良いところが見えてきて、いつかは嫌じゃなくなると信じています。GA修了後の抱負は、「核融合発電のための研究を続ける」ことです。やっと夢の研究をやれている訳なので、辞めるわけにはいきません。この分野はIt's a small worldなので、海外の研究者と研究や議論することが往々にあります。GAで身につける「英語に負けない」チカラを武器に、核融合発電が1日でも早くできるように研究を続けていければと思っています。



澤山 和貴

工学府  
地球資源システム工学  
一貫制博士2年(修士2年)

私は昨年4月にこの九州大学に入学し、5期生としてGreen Asiaに入りました。私が大学院から本学に来たのは、日本で数少ない地熱を専門とした研究室があるからです。私の研究テーマは、枯渇してしまった地熱資源を回復させる手法を確立することです。人工的に河川水などを地下へと注入することで地熱資源の回復を目指すEGSという手法があるのですが、地中に入った水をどうモニタリングするかが課題となっています。現在、電磁波を使って地中の水の状態を調べようという研究が進められていますが、この調査で得られる結果が、実際にどのくらいの水の量を反映しているかを調べた研究例は多くありません。そこで私は、実際の地熱地域の岩石を用いて、高温高压容器を使った室内実験からその関係を詳しく調べ、最終的には、探査の結果と比較することで地中の水の状態を評価する手法を確立しようと考えています。一年間、GAの授業で様々なことを学びました。英語のプレゼンや論文執筆の練習等すぐに研究に直結する勉強から、経済学をはじめとする専門外の勉強まで、普段の授業では学べないことを学んできました。楽しみにしていたラボローテーションやプラクティススクールも無事終わり、着々と新たな知識を身につけています。今後もGAで多角的な視点を養い、将来は新たな地熱資源の開発に携わる研究者になりたいと考えています。

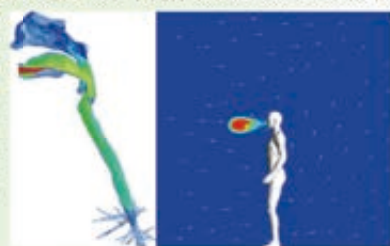


久我 一喜

総合理工学府  
環境エネルギー工学  
一貫制博士2年(修士2年)

私は現在、電子タバコ使用による呼吸器系スケールから室内環境スケールまでの健康影響を包括的に評価するため、計算流体力学(CFD)を用いて研究を行っています。近年では、CT画像を基に作られた気道モデルでのCFD解析が環境タバコ煙などの汚染物質吸引による定量的定性的な健康影響評価において有用と考えられ、動物実験を代替するものとしても期待されています。今後は、気道モデルの解析精度の向上と共に、室内環境への相互影響を検討していく予定です。

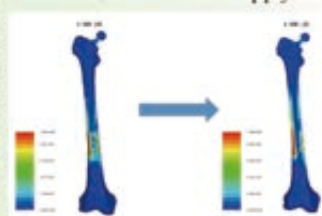
GAコース生となり約1年が経ちましたがまだまだ新たな発見の連続です。GAコースでは自分の研究分野のみならず、幅広い知識を身につけるために他分野の先生からの英語で講義を受けるなど通常のカリキュラムとは異なるスケジュールで進んでいきます。また、コース生のほとんどが東南アジアや中東からの留学生であるため、彼らと交流することで自然と英語を話すようになりました。このようないい刺激により単純作業になりがちな大学院での研究活動は自身の分野だけでなく幅広い分野において私を成長させてくれると思います。今後も世界の第1線活躍できる研究者になるべく精進したいを思います。



Wu Shun

総合理工学府  
物質理工学  
一貫制博士1年(修士1年)

This is Shun Wu, a master student of MMS. My professor focuses on the biomaterial and biomechanics. Currently, my research is concentrating on the stability of the femoral stem and the effect of stem design on the mechanical behavior after THA simulated by FEM method. As time flies, I have been living in Japan almost a whole year. In a past year, I have experienced so many exciting lectures, communication and events organized by GA program. From 20th August to 15th September this year, I participated in a wonderful internship in a Japanese medical device company in Prefecture Okayama. The research I did during the internship, which is related to my current research, would be able to instruct and improve my future work on this research. Moreover, I have learnt extra but smart technique on data processing and, more importantly, a lot of practical manipulation on mechanical experiment of femoral stem that I could not contact to them in the college. In the coming new semester, I can't wait to apply the experience accumulated in the internship to advance the modelling process a lot in my research and expect what would happen after that. Would this transformation deserve to write a paper? I don't know but I look forward to it.



コース生(第5期生)の活動報告